



春

異常気象か、4月7日まで寒い日が続き、櫻のつぼみも堅かったのですが、8日に突如 25.6 度と夏近くの温度になって、9日土曜日には満開。すごく美しい京都になりました。京都の町は、「この日を逃しては」と言う桜見の人で、Johanes Paulus 法王の葬儀で大混雑のローマの向こうを張るぐらいの人が急遽集まってきているようです。京都大学の桜も見事なものです。

櫻

新学期が始まり、学部は従来と何ら変更なしに、機械工学科、機械物理工学科、精密工学科の機械系3学科で、大学院は改組され、旧航空宇宙工学科と一体となった機械工学群として、機械理工学専攻、マイクロエンジニアリング専攻、(新)航空宇宙工学専攻で運営されます。

現在、新入生、新学年のガイダンスも終わり、大学院修士1回生の研究室配属作業のまただ中で、年々早くなる就職活動は現在 hottest season で、



連休前に来春の卒業生の推薦状を発送するぐらいです。

前期の授業は7月14日までで、15日から8月1日までが試験、夏休みは8月6日から9月末までです。

後期は10月3日授業開始で、12月27日から1月4日までが冬休み、但し、12月26日、1月5、6日は補講のための予備日ですので、恐らく実体的な冬休みは12月23日から1月9日までとなるでしょうね。後期試験は1月23日から2月の3日までの予定です。



時計台ホルの裏のガラス

時計台裏の桜

但し、上の日程は、好い加減なメモを見ながら書いた非公式なものですので、若干変更されることもあると思って、必要に応じ、チェックしてください。

大学院修士課程の入学試験は8月7、8日、博士課程の試験は8月10、11日の予定です。

京機会関西支部産学懇話会

9日午後第19回京機会関西支部産学懇話会が機械系教室において開催されました。今回の主題は「日本のものづくりについて」と言うことで、昭和43年卒、三菱日立製鉄機械㈱の芳村泰嗣氏の「圧延設備のものづくりについて」と題する講演が持たれた。成熟してしまったと見られている鉄鋼製品生産用圧延プラントのビジネスについて、製品のライフサイクル、および、競合他社と戦う技術開発を

(1) 技術とビジネス

(2) 製品価値と成熟度

をもとに、必要なモチベーションとドライビングフォースに焦点をあて、三菱重工業(株)と日立製作所の鉄鋼プラント部門において経験した具体例を、合併会社設立の後に振り返り、将来の『モノづくり』についての考察がされた。

(内容については、そのうちに京機短信で紹介できる予定です。)

続いて、昭和41年卒、京都大学の久保愛三氏の「機械部品形状精度の保証について」と題する講演が持たれた。部品精度が機械の強度や音振動性能に極めて大きな影響を及ぼしている実例が示され、つ

いで、グローバル化、アウトソーシングの動きの中、良い品質の機械部品の安定的調達はそのほど容易なことではなくなっていること、機械部品形状精度についてはISOで、不確かさとトレーサビリティが要求されるが、例えば歯車についてはその要求を満たすことの出来ない現状が紹介された。

この状況に対する取り組みとして、アーティファクト(形状原器)の開発、歯車精度測定機の校正・検定に関する規格制定、の状況が紹介された。また、形状測定機の精度の校正や検定に、測定結果のデータを直接評価するのではなく、昔では考えられなかったような複雑な数学処理を測定データに施した結果で評価する方向性が認められること、主として測定結果の不確かさを明らかにするため、たとえばバーチャルチェッカーと言うように、仮想現実の世界のデータを利用した形状精度測定機の校正や検定のやり方が導入されようとしていること、が紹介された。このような動きに対し、コンピュータの最大限の利用の利点と危険性が述べられた。

(文責 久保愛三)

貴方の学年の同窓会を京大の機械教室で 気軽にやりませんか 世話は京機会関西支部のサービスです



やってあげられることと出来ないこと

1. 当該年度の京機会メンバーへの同窓会案内の e-mail 配信をします。アドレスは京機会が持っている最新のものを使用します。但し、複数年度にわたる案内は出来ません。案内状の郵送は出来ません。
2. 懇親会の手配をします。但し、会費1500円程度の立食パーティーです。会場は機械系の教室内です。時間は、概ね、土曜日の17時30分から適当に、です。
3. 2次会の世話はできません。勝手にやって下さい。
4. 宿泊の手配は出来ません。
5. 教室の見学等の世話は出来ません。

からくりとやり方

1. これは、京機会関西支部の産学懇話会に、講演者の学年の人を呼び集めて、産学懇話会をその学年の同窓会にしよう、という企画です。講演会後の懇親会が、その学年の人にとっては同窓会の一次会になります。
2. 京機会からの同窓会案内は、当該一年度の同窓生にしか送付されませんので、同窓会に呼びたい他年度卒業生の人については、同日に開かれる産学懇話会の案内を見てもらうことになります。産学懇話会の案内に、その会が、当該年度の同窓会である旨の案内を入れます。



申し込み方法

1. 産学懇話会の案内がすでに配布されている時、その講演者の学年の誰かがこれに合わせて同窓会をしたいと思った時には、その旨を京都大学機械理工学専攻の久保愛三に メール kubo@prec.kyoto-u.ac.jp して下さい。当該年度京機会登録メンバーへ、同窓会案内の e-mail 配信、出欠確認、一次会の手配を致します。
2. 次の産学懇話会が確定していない時に、次の産学懇話会に合わせて同窓会をしたいと思った時には、その学年から誰か(複数可)、産学懇話会の講演者を選び、その旨を、京都大学機械理工学専攻の久保愛三に メール kubo@prec.kyoto-u.ac.jp し、交渉して下さい。

当該年度京機会登録メンバーへ、同窓会案内の e-mail 配信、出欠確認、一次会の手配を致します。

3. 産学懇話会は、年3回開催されます。産学懇話会に出席し、次回開催日を決める時に、前記2.の提案をして頂くと、同窓会開催日時を希望の日に合わせても可能かと思えます。
4. 次回産学懇話会は、7月16日(土)13時30分から京都大学機械系教室216室において開催予定です。希望のおありの方は早急にお知らせ下さい。

しばらくすると、今回については講演者が決まり、前記2.の申し出は不可となりますので、ご了承下さい。



京機短信 寄稿のお願い

投稿，宜しくお願い申し上げます．

宛先は京機会の e-mail：

keikikai@mech.kyoto-u.ac.jp です．

送信の Subject 名は，「京機短信 yymmdd 著者名」の書式によるものとし，これ以外は受け付けません．ここに，yy は，西暦の下二桁，mddd は月日で，必ず半角でなくてはなりません．例えば 2004 年 8 月 8 日に京機花子から送る寄稿メールは「京機短信 040808 京機花子」なる題目のメールとして京機回事務に送られねばなりません．匿名，ペンネームの記事は不可とします．

内容的問題，すなわち，内容的に公示価値のないもの，真実と異なる内容のものや，攻撃・誹謗・中傷的文章，広告的なものなどは，掲載しません．

内容的に OK の寄稿については，記事を「京機短信」の所定ページに収めるための編修的修正をエディターが勝手に行います．ページに収めるための大きさの修正が難しい原稿は自動的に掲載が遅れ，あるいは，掲載不能となります．発行までの時間的制約，ボランティアとしての編集実務負荷の限界のため，原則として，発行前の著者へのゲラブローフは行いません．



SMILE ~スマイル・レター~ LETTER

京機学生会SMILEです。スマイル・レターでは読者の皆様に私たちの活動をより詳しく知って頂くために、過去に開催した企画の活動報告をお届けしています。今回は昨年11月に開催した『学生と先輩との交流会』について、企画責任者からの報告をお届けします。

京都大学機械系では、様々な業種で活躍する先輩方から、学生が情報を得る機会として、毎年多くの先輩方をお招きし、各社ブースを設置しての合同企業説明会を行っています。SMILEはこの『学生と先輩との交流会』の企画・運営をH15年度より担当しており、昨年11月13日に京都大学物理系校舎にて京機会秋季大会・総会と同日に開催しました。ここでは本企画の責任者である井本武宏からの企画開催の感想をお届けします。
～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

私たち学生にとって、社会人の方々と直接お会いし、実社会や大学生活などについていただくアドバイスは、私たち自身の将来について考える際に非常に参考になります。学生のうちから社会に目を向け、日々の活動に明確な目的意識を持つことによって学生生活がさらに充実し、社会に出て活躍できるのではないかと私は思います。交流会での先輩方との交流が、参加した学生の将来に対する意識の向上の一助になればという思いで、今回は私がこの企画のプロジェクトリーダーを務めさせていただきました。学生の中に、多くの人と関わりあうことができる企画、それも社会人の方と関われる企画の運営に携わりたいと考えていました。交流会はその絶好の機会であり、やるならばリーダーとして進めたいと思い立候補しました。これまでグループの先頭に立って物事を進めた経験はそれほど無かったため苦勞すると思っ

ていましたが、その苦勞から得られるものは今後必ず役に立つと思い、企画に臨みました。

本番3ヶ月ほど前から本格的に始動し、案内方法、交流会の詳細、受付・説明会等の当日の運営、企業のブース配置、企業の方や学生にお願いするアンケートの作成、様々な問い合わせに対する対応などについてミーティングで話し合い、それぞれ担当を決めつつ進めていきました。私はなかなか人任せにはできない性質なので、あらゆる仕事に関わろうとし、文書の作成やメールでの対応に追われる日々が続いて苦勞することもありました。1人(私)が苦勞するならばそれはそれで良いと思っていましたが、そうすると、メンバーとの情報共有が困難になる上、自分の時間がどんどん削られてしまいます。やはり、役割分担を明確にし、メンバーに任せるということをもっと積極的に行うべきであったと思います。大小関わらず企画というものは1人で全て行えばできるというのではなく、その企画に関わる全ての人との意思疎通を図った上で進めなくてはなりません。今回で言うならば、参加していただく企業の方々をはじめ、教室の先生方や事務の方々、運営メンバーとのコミュニケーションをうまく行い、そして多くの協力を得てこそ企画が成功することを認識しました。今回は大きなトラブルも無く、メンバー全員で協力して当日の運営ができたことがなにより良かったと思います。

最後になりますが、今回の企画に関わっていただき、そして協力してくださった皆様にはこの場を借りて感謝いたします。交流会にはまだまだ改善すべき点があります。今回の経験を次回に活かし、学生と先輩との双方向のつながりがより強くなるような交流会の開催を目指していきたいと思っています。

~~~~~

“スマイル・レター” 編集担当：寺田 大樹  
スマイル会長：中安 祐貴

※本記事についての意見・感想は  
[terada@frontier.kyoto-u.ac.jp](mailto:terada@frontier.kyoto-u.ac.jp) まで、  
また、SMILE の活動はホームページ  
でも公開しております。  
[http://www.hi-  
ho.ne.jp/dai2seiki/smile/smile frame.html](http://www.hi-ho.ne.jp/dai2seiki/smile/smile_frame.html)